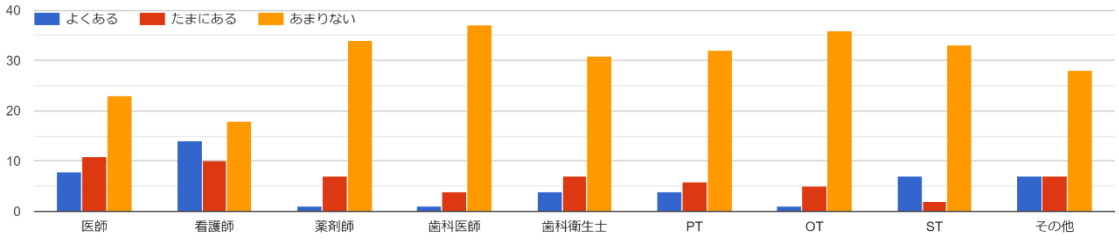
報告　山梨県栄養士会「平常時および災害時での、歯科を含む多職種との連携に関するアンケート」

対象：山梨県栄養士会会員
方法：①山梨県栄養士会の会報誌に同封でチラシを送付し、Google Form にて回答
　　②生涯教育研修会の受講者にメールでチラシを添付し、Google Form にて回答
期間：6 月 7 日～7 月 10 日（当初の 6 月 19 日から締切延長）

回答者　42 名
職域　　学校健康教育 1 名、公衆衛生 9 名、教育研究 5 名、勤労者支援 1 名、
　　地域活動 6 名、医療 14 名、福祉（高齢・児童・障害）6 名
年代　　20 代以下 8 名、30 代 7 名、40 代 11 名、50 代 7 名、60 代 5 名、70 代以上 4 名

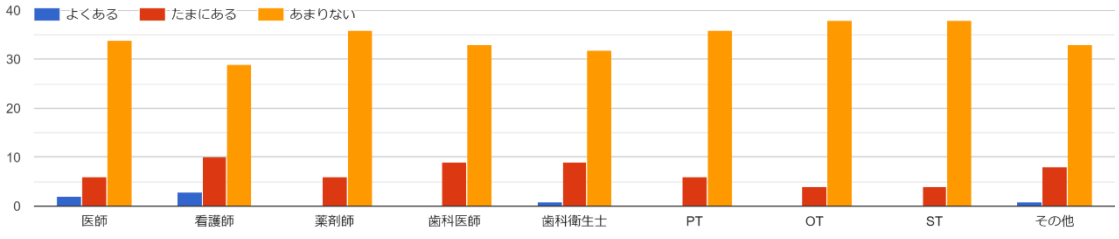
1）普段の多職種との連携について　（回答 42 名）

【院内・職場内】において、「食べる」支援の連携の機会があるか



医師　看護師　薬剤師　歯科医師　歯科衛生士　PT　OT　ST　その他

【院外・職場外・地域】において、「食べる」支援の連携の機会があるか



医師　看護師　薬剤師　歯科医師　歯科衛生士　PT　OT　ST　その他

＜普段の多職種連携についてのコメント＞

学校健康教育

- 支援学校なので、直接食べさせている教員と、食べやすい、食べにくい等関わることがある。

公衆衛生

- 保健師

教育研究

- 保育士

地域活動

- 保健師
- ケアマネ、保健師
- 地域ケア会議等で、ケアマネやヘルパーなどと

医療

- 町役場保健師さん　地域の介護事業所のケアマネさん等と地域ケア個別会議で話し合う機会が有ります。
- 眼科医師とは「一人暮らし高齢者見守りチーム」で話し合う機会も有ります。
- 多職種連携協議会が地域に有るが、年に数回の会議で報告等を聞く程度。実際の活動には繋がらない現実がある。
- 看護助手
- 看護助手さんとの連携
- 施設入所中でクリニックに通院している方がいるので、施設の管理者の方と食事についてのやり取りをすることがあります。
- 社会福祉士、ケアマネジャー
- 保健師との連携が多いです。

福祉（高齢・児童・障害）

- 施設のケアマネジャーと連携することが多いです。
- 介護保険分野では、ケアマネジャーとの連携が不可欠。また、嚥下障害の前に、歯のない方、義歯はあるが未使用の方、義歯の調整が必要な高齢者が大勢いる。歯がない、または少ない状態では食べられる物を食べるしかない方も多く、在宅では調理に限界もあり、栄養の偏りがある。私の職場では、歯について必ず確認し、歯科受診で改善できそうな方については受診をおすすめし、実際に普通食が食べられるようになった方も大勢経験しており、歯科の先生方には大変感謝しています。
- ケアマネジャー
- ケアマネジャー

2）これから、歯科に期待する連携

公衆衛生

- できることの明確　例摂食の評価
- 歯科医院での積極的な管理栄養士との連携、栄養士会との連携
- 嚥下困難やその全段階のオーラルフレイル予防の連携ができると良い
- 高齢者前からの口腔機能の維持の取り組み

教育研究

- 訪問栄養食事指導における、連携
- 管理栄養士との関わりについて
- 歯科医師からも、フレイル対象者への、管理栄養士による栄養の指導の指示が診療報酬上で出きるようになると良い。

地域活動

- 低栄養の高齢者の食支援で、栄養士が歯科衛生士と共に訪問支援する必要性を強くかんじている。
- 歯科医師や歯科衛生士との訪問栄養指導
- 摂食嚥下では、お互いに同席訪問できるようにしてほしい。
- 通院が、困難な高齢者への支援
- 歯科と連携はしたいが、どこに受け口があるかわからないため、わかりやすい受け口が必要だと思います。また、連携できるのか？も不明な部分があるため、どんなことが可能か詳細があると連携しやすいと思います。栄養士でも歯科の必要性をまだまだ感じていない方もいるので、どんどん情報提供した方が良いと思います。

医療

- 訪問歯科診療において、歯科衛生士さんが「栄養・食形態」等を担当なさって、柔らか食やエネルギー・たんぱく質補充の食品など紹介しているとお聞きすることが多いので、「栄養・食」に関して管理栄養士と連携し、互いの専門性を有効活用できるような仕組み作りを協力して作ることができれば一歩進めるのでは？と思っています。
- 訪問歯科診療の際「栄養、食事」の介入が必要な患者さんが居たら連携出来る様になると良いと思ってます。
- 食べられない時、歯科の口腔状態診断と対応そして栄養士の栄養状態把握と対応をセットにして実施するのが当たり前となるような流れをつくれたらと思います。
- 歯科医が栄養指導の指示書を出せる。歯科医院に管理栄養士が在籍している。

- 職場に来ていただき、定期的な口腔ケアの指導を行っていただきたい。
- 食形態について
- 咀嚼や嚥下について
- 口腔内が汚れていると肺炎になりやすいことは、一般の方にはあまり知られていません。普段の歯科治療の一環で、その事を患者に伝えて欲しい。
- 栄養指導依頼
- 同じ職場に属さなくても職場間で連携できるシステムで、健康寿命の延伸をあたりまえのこととして推進できるとよい

福祉（高齢・児童・障害）

- 高齢者施設入所者の口腔状態を共有して頂き、どういった食事が適しているか相談させてもらいたいです。
- 訪問歯科の充実を希望します。歯科衛生士だけではなく歯科医師に訪問をしていただきたい。
- リハ栄養について
- 栄養と歯科の連携を図るためにも、歯科医院でも常勤の管理栄養士を雇ってほしい。

3）歯科をふくむ多職種との連携を学ぶために、参加したいと感じる研修会

公衆衛生

- 口腔機能からみる摂食の説明や事例　在宅訪問時にやっていることの流れを知りたい
- 自分の職場のように、実際に歯科と栄養士が一緒にタッグを組んで仕事をしている職場があれば、参考のために内容やポイントを知れる研修会があれば参加したい
- 実際に連携している好事例の紹介や今後必要とされる連携について
- 歯科分野の方との連携事例
- 実例紹介
- オンラインが参加しやすい

教育研究

- 歯科の介入が必要な具体的事例
- 栄養士に望むこと
- ワークショップ形式の研修会
- 管理栄養士による栄養の指導における成功事例発表等

地域活動

- 栄養士ができる歯科支援の実践研修
- 嚥下評価の実践

医療

- 管理栄養士（わが県に限りかもしれません）が実際の症例など学ぶ機会がないので
- 小グループで遠慮なく質問しあえるような先ずは話し合える機会があると良いなと思っています。座学で聞くだけでは中々実感として受け止めることが出来にくいと思っています。
- 何か有ったらすぐ繋がれる関係性が構築出来る機会になる研修会が先ずは必要と感じます。
- それぞれの職種からみた患者の見方（欲しい情報や判断方法）を学び、多職種が他の職種が関わった方が良いと判断できる基準を考える検討会はいかがでしょうか
- 嚥下や咀嚼に関して多職種からの視点を学べる
- 患者の状態に合わせた口腔ケアを実際に生で見たい。
- 遠隔研修の場合でも、実技を基に経験できる研修会
- 実際の災害現場での経験が聞きたいです。そこから私たちが何を準備しておくべきか学びたいてす。
- 症例検討
- 咀嚼機能が健康に及ぼす影響についてや、歯科医が薦める最も効果的な歯磨きの仕方、むし歯や歯周病を予防する時間栄養的な根拠があれば学びたいです。

福祉（高齢・児童・障害）

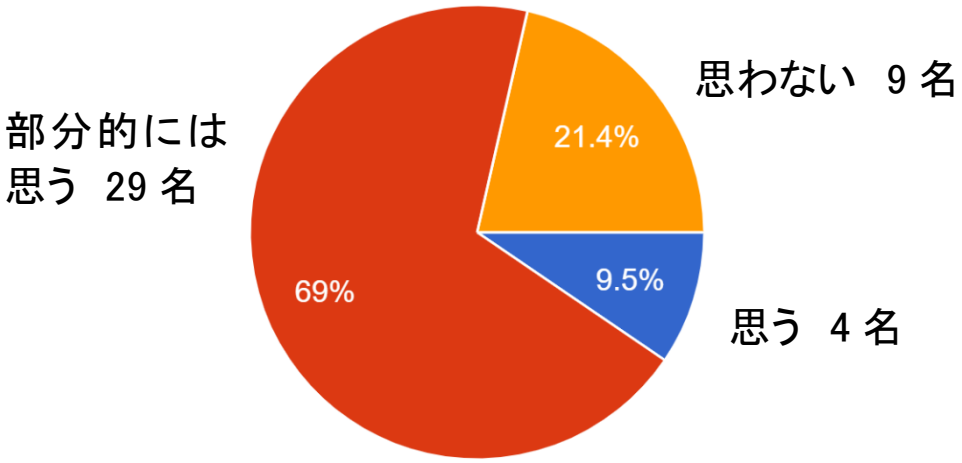
- お互いの専門性を批判しない語り合いの場があると参加しやすいです。
- グループワークの事例検討会に多職種が参加したものは以前参加して良かったです。普段の職場にはない職種が同じグループに入って、課題を検討することは新鮮でした。
- 経口維持加算、経口移行加算、経管栄養の方の経口摂取に向けた事例など
- 他職種との意見交換会や各職種でのシンポジウムなど

4）災害時の栄養確保に向けた研修などの準備 （回答 36 名）

所属組織（院内・職場内）や所属地域において、体制整備をしている	21
自治体での研修を受けている（健康危機管理研修、DHEAT 研修など）	4
栄養士会以外の民間の研修を受けている（災害医学会、JIMTEF など）	2
防災・災害関係のセミナー等（災害医療以外）に参加したことがある	13
JDA-DAT 研修（日本栄養士会・山梨県栄養士会・他県栄養士会主催）を受けている	22
日本栄養士会関東ブロックで連携出来る研修会を検討中	1
県栄養会での JDA-DAT 体制整備を準備し始めている	1

5）災害時の「食べる」支援において、他職種との連携はスムーズに進むと思うか

（回答 42 名）



6）災害時の地域住民の栄養を守るために、このままでは足りないと感じる課題や、これから取り組んでいったら良いと思うアイディアなど

公衆衛生

- 避難所等のマネジメントをする側の食の大切さの理解度を上げたいが自分はまだ上層に掛け合う立場ではない
- とりあえず備蓄はあるが、それが使えるかどうかなど実際に災害が起きたときのシミュレーションをしながらの整備が進んでいない。やらなければならないと思っていながら、すぐにやらなければならない業務が優先されてしまう。
- 他職種との連携、他職域の栄養士との連携
- 防災訓練をする機会

教育研究

- 行政における災害時の食支援の必要性
- 災害前の現状の山梨県が抱える歯科、栄養の課題把握、栄養士側の歯科分野に対する知識や理解の向上
- 市町村行政の理解と協力及び栄養士会からの説明

地域活動

- 支援食料の栄養不足、エネルギーに偏った食料が多いので、高齢者向けの食支援、アレルギー対応食の支援
- 住民への周知
- 人材の確保が難しい。
- 情報が地域住民に以下届いていないと思います。若い方、忙しい子育てママなどにはわかりやすくSNSなどを活用して情報提供していく方が良いと思います。

医療

- 県　市町村の防災関係部署に管理栄養士の関りなど説明に出向いているが、災害時の「栄養・食事」が最重要課題だとは思えない様子があります。優先順位はそれではない」とか言われたこともあります。これから、もっと市町村の担当部署の方々にご理解いただけるような説明をしなければと思っています。
- 地域の自治会や、マンション等での管理組合などに向けて、多職種共同で災害時で出来る対策や、心構えなどの研修会を開催してみる。
- 行政の関係部署の方々との連携が中々出来ない(必要と思われて居ないのでは？と思ってしまう)県に説明に行くと、災害支援は市町村の管轄だと言われ、市町村に行くと管理栄養士が災害支援するんですか？と言われる現実を何とか出来たらと思う。

- 各職種別の研修だけでなく、多職種でのシミュレーション研修（実際に起きた災害時状況をもとに、各職種で何ができるか、足りないものは何かなど）
- 口腔の状況や嚥下機能に合わせた災害時の食事提供には大きな不安がある
- 各家庭での備蓄量・内容の例、実際の値段。
- 食物アレルギーへの対応。手に入る食品の偏りによるビタミンB1、食物繊維、たんぱく質などの栄養素の不足。
- 自宅で被災し、職場がある地域ではなく自宅がある地域で活動することになった場合、初動をどうしたら良いかわからない。
- 地域連携
- 地域連携が足りないと思う
- 豪雨時の避難の呼びかけをテレビでかなり見かけます。災害時の食事も同じ位の熱量で発信することは必要だと考えます。

福祉（高齢・児童・障害）

- 栄養を守るためには食べることが必須です。しかし、食べるためには様々な場面で衛生的でなければいけないと思います。例えば、トイレが不衛生だとトイレへ行く頻度を減らすために水分を摂らず、脱水になってしまうかもしれません。もちろん、口腔内も清潔でなければ食欲もわかないし、誤嚥のリスクも高まることから、低栄養の心配があります。ただ、私個人としては、災害時にどのように口腔内の清潔を保てば良いのか知識がありません。具体的な物品や手技を教えて頂けると幸いです。
- 平常時でも、施設にいると地域での課題が見えないことが多く、それが災害時となるともっと難題となるはず。地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携から、災害弱者への対応の在り方も含めて考えていく必要があると思う。福祉避難所を設置したというのが名目だけにならないように、行政も巻き込んだ方が良い。
- 食事形態別の工夫
- 摂食えん下が困難な方向けの柔らかい食事の備蓄がまだまだ少ないと思うので、その備蓄を充実させること。

2022 年 9 月 1 日

中久木康一
nakakuki@biglobe.jp